

## 2017年度 事業報告

2017年4月1日～2018年3月31日

公益社団法人 神奈川県助産師会

はじめに

「助産及び母子保健の普及・啓発」「助産師の資質向上のための教育及び環境整備」を主とし、さらなる適切な事務の運営・財務管理の徹底を目指すとともに、本部との連携活動を図りながら本会の目的達成を目指した。

### I 助産及び母子保健の普及・啓発及び調査・研究に関する事業

本会主催の出前講座を主としたセミナー・研修会を開催し、広く多くの人への助産及び母子保健の普及・啓発に努めた。

#### 1 助産及び母子保健の知識の普及・啓発活動

##### (1) 出前講座・助産師の派遣等

- ・タクシードライバーに助産・母子の知識を普及させるための講習会を開催  
講習会依頼：出張講習会、計4回実施、受講人数360人 個人向け講習会、1回実施、参加者2名
- ・母子保健の知識の普及開発のため企業・学校を対象に「女性のための健康講座」を開催：  
依頼者：NPO法人こまちぷらす「聞こえないママ×まちプロジェクト」  
2017年11月7日 参加者：大人13名（聴力障害者6名）乳児7名  
また、助産雑誌7月号（医学書院）に「女性のための健康講座実施報告」を掲載した
- ・卒業間近の助産師学生が助産師の多様な働き方を再認識し、自己の将来について考える機会を作るための講座を開催：助産師養成所1件（東京都）を会員3名が訪問し、講座を実施した 受講者43名
- ・他団体からの要請に応じ会員より研修講師を選定し派遣する  
他団体より2件（福島県、東京都）の依頼があり、研修講師として会員を派遣した。

##### (2) 子育て・女性健康支援事業

- ・助産師が伝える「いのちのはなし」事業の推進  
助産師が伝える「いのちのはなし」を8施設に開催した  
地域向け家族で聴く「いのちのはなし」を開催した（見学者6名）また、会議にて講義内容の検討、実施心得の作成を行い、地域向け講座の企画をした 参加者合計（延べ）大人19名、子ども30名
- ・健康支援センター事業（ハローベビーかながわ）の推進  
電話相談 月～土曜日 10時～16時 ベビーマッサージ・母乳育児支援等 月1回開催  
延べ626名の助産師が電話相談実施した 相談件数：663件
- ・ふれあい助産師サロン  
ベビーマッサージ&育児相談・母乳と離乳食・授乳と卒乳についての話 12回開催  
2ヶ月から8ヶ月の児を持つ家族20組 参加費1組1,000円 参加者のべ144組
- ・地域貢献のため「とわ助産院」を開放し、ニーズに合った教室・講演を開催  
10月12日をとわの日として、とわ助産院を母子に無償で解放し、沐浴クラス（80組）を開催した  
定期的な母子のための教室（ベビーサイン・産後ボディケア・ベビーマッサージ）を開催した  
沐浴クラス 36組参加、地域で受講漏れの方に提供できた

・とわ助産院での産後ケア事業による育児支援

2018年2月より、「横浜市訪問型母乳相談事業」の委託を受けた。(新規)

**(3) 行政機関や関係団体・企業との連携強化**

・産後ケアの充実や助産師の待遇改善等を記載した要望書の提出等、行政機関との連携を強化

行政や政党に要望書を提出し、要望ヒアリングに出席した

・各種団体・企業と連携し、沐浴指導等のための助産師派遣

他団体の研修会へ講師派遣推進：

赤ちゃん本舗講師派遣：アリオ橋本店 12回/年 湘南テラスモール店 3回/年 実施

企業と連携を図り相談員として助産師派遣：イオン東戸塚店と契約更新会議実施し3月30日契約、助産師相談、担当2名、毎週水・日曜日10時～17時実施、相談員ミーティング実施(2回)

・広報委員会：ニュースレター(広報誌)の発行(12月号)、助産師マップを改正(3年に1度)し、学校や病院、区役所等へ配布した。本会活動を紹介する情報等、最新の情報をHPに掲載、更新し、HPの充実を図った。

**<安全管理>**

ヒヤリハット等の事例をはじめとし、安全管理にかかわる情報の分析による最新データから助産師を教育し、助産師1人1人が業務上の事故再発を防止及び災害発生時妊産婦、女性の支援体制の確立ができるよう以下の活動を行う。

・医療安全のためのリスクマネジメント研修会を開催 参加者：34名

・医療事故事例の分析や安全管理の情報提供

安全対策委員会：事故事例の事例検討・分析を実施し、結果を助産所部会へ報告した。事故事例発生時の助産院事情聴取の手順案を検討した。助産所部会における事例報告の匿名性の意義と再発防止に向けた対応について提案、審議し、助産所名を明かさず匿名性を尊重し、情報共有していくことを目的とした。「感染症対策マニュアル資料」作成、助産所へ配布、掲示の啓蒙を行った。

保健指導部会：ヒヤリハット事例3件、グッドジョブ事例1件→部会委員会で検討、安全対策委員会に提出、日本助産師会に提出した。

助産所部会：助産所で起きた事故に対し安全対策委員と一緒に1回、医療機関へ出向いて内容を調査した。各助産院からの異常報告は1週間以内に部会長に報告されるようになった。

・緊急性の高い事故事例調査・相談窓口設置による連絡・連携への対応

助産所での事故事例に対し、安全対策委員とともに内容調査を実施。(1回)

・嘱託医・嘱託医療機関との連携強化を図るための報告会を開催

2017年7月13日(木)神奈川県内助産所の分娩転院搬送報告に伴い、講演「母体安全の提言」を開催、参加者数66名

・ガイドラインの遵守の徹底

・助産師業務の安全管理を図るため、日本助産評価機構の助産所評価受査を推進

2017年9月から11月にかけて県内助産所同士で助産所安全管理評価を実施した。

・助産師の損害賠償保険への加入推進

・保健指導で開業している助産師に対する安全管理基準の周知徹底

7月の部会集会「母乳育児支援自己評価調査の結果について」、11月の部会集会「保健指導開業に関して」において、安全管理基準の順守・賠償保険加入・ヒヤリハット事例報告書の提出と事例集の活用方法について説明した。

＜支援事業＞

・自然災害時に行政が対策本部実施の際、とわ助産院が「妊産婦・母子対策センターとなり、安全の確保と助産師のボランティア派遣を行う。

災害時安否確認訓練実施（2018年2月）

・産科医不足の対策のため助産院留学の制度を設置し、とわ助産院においても助産師・学生の受け入れを行う 助産院留学の研修生の申し込みはなかった

・助産所運営の改善支援のため、産婦人科医・行政に要望書の提出を行う

行政・政党に要望書を提出した

・すくすく赤ちゃん献金の管理、広報

すくすく赤ちゃん献金贈呈（総会にて）を実施。NPO サポートルームぼっちぼっち様 50,000円

2017年度 献金預かり 神奈川県助産師会 97,500円 2016年度 繰り越し金 2,920円 計 100,420円

### 3 調査・研究

以下の収集データにより調査・研究を行い、その結果をホームページ・会報から公表し、広く多くの人に周知させる。

(1) 各部会等における活動内容のデータ

・助産所の分娩・搬送に関するデータ

異常報告は1週間以内に部会長へ報告されるようになった

・助産所の安全管理に対する他者評価の実施

2017年9月から11月にかけて県内助産所同士で助産所安全管理評価を行った。

助産所で起きた事故に対し安全対策委員と一緒に1回、医療機関へ出向いて内容を調査した。

・保健指導部会のヒヤリハット事例等に関するデータ

①ヒヤリハット事例3件、グッドジョブ事例1件→（部会委員会で検討、）→削除、安全対策委員会に提出、日本助産師会に提出した。②母乳育児支援自己評価調査（7月配布：124名 8月回収：70名 回収率：56%）→日本助産師会に提出→結果は機関誌にて報告、神奈川県の結果は7月の部会集会にて報告した。③都道府県助産師会保健指導部会活動調査に協力 部会長が作成→日本助産師会に提出した。④神奈川県助産師会保健指導部会会員活動調査→当会ホームページにて報告した。（7月配布：124名 8月回収：71名 回収率：57%）

・助産所実習の受け入れ状況と就職状況のデータ

助産所実習の受け入れ状況と就業状況に関するデータ収集を行った。

(2) 母子保健活動の実態に関するデータ

・子育て・女性健康支援センター事業（ハローベビーかながわ）のデータ

ハローベビーかながわの電話相談件数・内容を集計し、本部に報告。ホームページに掲載した。

・いのちのはなし事業のデータ

ホームページに調査報告を掲載した。

(3) 助産師が行う研究等

・助産師が行う研究等に関する研究倫理審査の実施

研究倫理審査を4件実施した。

第31回神奈川母性衛生学会で助産所部会の活動についてまとめ、発表した  
(演題：産後ケアの現状と課題)

Ⅱ 助産師の資質向上のための教育及び環境整備に関する事業

1 助産師及び助産師養成機関学生の能力向上・スキルアップのための研修会・講習会

次のセミナー・研修会を本会運営のとわ助産院を主な会場として開催する。

・助産業務スキルアップを図るための研修会

2017年5月21日開催 参加者 ①助産師と記録23名 ②フィジカルアセスメント(代謝)25名

③CTGの判読と助産師の対応23名 ④フィジカルアセスメント(循環&呼吸)24名

2017年7月30日開催 参加者 ①助産倫理34名 ②フィジカルアセスメント(脳神経)44名

③新生児のフィジカルアセスメント50名 ④産科危機的出血の病態とその対応47名

・母子保健に関する知識の普及や技術向上のための研修会

2017年7月1日 開催 参加者98名 2017年11月19日 開催 参加者：38名

・研修会名：「勤務助産師のためのスキルアップ研修」

2017年6月24日 開催 参加者 34名 平成30年1月25日 開催 参加者 34名

・電話相談等の相談業務の資質向上のための研修会

2018年2月24日開催 参加者：36名

・助産業務に関する安全対策(リスクマネジメント)研修会

2017年10月21日開催 参加者：34名

・災害対策に関する研修会

2018年2月17日 開催 参加者28名

・産科救急対応に関する研修

新生児蘇生法Bコース講習 2017年12月3日 参加者27名

新生児蘇生法スキルアップ研修 2017年5月11日 参加者 午前11名、午後4名、2017年

9月7日 参加者 午前11名、午後12名 平成30年2月22日 参加者 午前12名、午後10名

出張Bコース講習 1件依頼、出張新生児蘇生法スキルアップ(S)コース(2回)1件依頼

・母乳育児ケアに関する研修会

2017年9月24日開催 参加者41名 2017年12月7日開催 参加者34名

・助産院留学の推進

留学及び各種講座見学の手順作成 HPへの掲載、報告書の見直し、留学生募集のためチラシを配布した。

(会員発送、施設発送、各研修会にて)留学者16名(延べ36名)

各種講座見学：いのちの話(学校)1名(地域向け)5名

・「いのちのはなし事業」における講師の育成

「地域向け家族で聴く「いのちのはなし」の見学者を述べ6名受け入れた。会議開催にて講義内容の検討、実施心得の作成、地域向け講座の企画をした。

・助産所実習調整を学校と助産所の連携強化を行い、助産所における実習の受け入れ環境の整備する

実習 調整会議 2018年6月9日 出席者 学校関係 51校、助産院 6施設 計58名  
2018年12月9日 出席者 学校関係 46校、助産院 7施設 計62名

## 2 助産師の労働環境等の改善

以下の活動を行い、労働環境の改善を図ることで助産師・助産所の資質向上のための環境整備に力を入れていく。

### (1) 労働環境の改善

・病院・診療所における勤務助産師の待遇改善への取り組み

クリニカルラダーの更新にむけて事業運営委員と共に研修会を行った。

・勤務助産師の復職やリフレッシュ化を支援

より質の高いケアに向け学び、助産師のリフレッシュの大切も共有する事ができた。

### (2) 助産師・助産所の資質向上のための環境整備

・新規開業や契約解除による嘱託医・嘱託医療機関の確保

・周産期医療ネットワークに助産所が組み込まれるよう産婦人科医会・行政に要望

・事故再発防止のための事例検討

・助産業務ガイドライン遵守の徹底

・助産所安全管理評価・日本助産評価機構助産所評価の推進

・保健指導部会員の情報共有化(メーリングリストの活用)

・賠償責任保険加入の推進

・保健指導開業助産師(出張以外のすべての有施設助産所)の安全管理基準の周知徹底

神奈川県保健指導部会員活動調査にて、クリニカルラダーの取得・取得予定の状況の把握を行った  
保健指導部会員の情報の共有化 部会集会やメーリング等で、日本助産師会・神奈川県助産師会の活動、調査の周知、研修会の案内等の情報を伝えた。

## Ⅲ 助産所の運営

本会の収益事業とし、とわ助産院の健全な運営を行う。妊婦健診・分娩介助・育児相談等の事業を行うと共に本会の公益目的事業である「助産及び母子保健の普及・啓発」を目指し、以下の活動を行う。

・産後ケアの受入(横浜市委託事業) 47人(横浜市委託事業35人 自費12人、述べ日数240日)

2018年2月より訪問型母乳相談事業に参入 2件

・各種研修会・マタニティヨガ・ベビーマッサージ等開催のための研修室貸出し

助産師・学生の技術向上のための実習の場として活用してもらう。

また、保育園への講演、中学生の職業体験受入等、行政・近隣の子育て機関との連携強化に努め、安全管理指針に基づく従業員への安全管理教育・施設の防犯・防災管理を徹底させ、併せて施設の充実を図ることで、本会運営のとわ助産院を安心で安全な施設とすることに努力する。公1参照

中学生の職業体験受け入れ(2名)、入院助産受け入れ(0名)・産後ケア(47名延べ日数240日)・訪問型母乳相談2件。分娩件数42件 妊婦、産後健診340件 母乳マッサージ 450件。  
看護学生(8校118名)助産師学生(5校14名)。

#### IV 会員相互扶助に関する事業

本部・他全国部会との連携の強化を図る。特に以下の活動を行うことで、本会の組織強化と福利厚生の実現を図る。

- ・表彰(すくすく赤ちゃん献金表彰等)別紙
- ・叙勲、表彰推薦
- ・慶弔 弔慰金1名
- ・賀詞交歓会 平成30年1月29日 参加者77名(講演:年を重ねても美しくあるために)
- ・研修会参加補助のためのチケット発行(2000円券2枚)(145枚+特典チケット19枚)

#### V その他

本会の基本財源である会費収益の安定化を図るため、会員ネットワーク推進等の会員増加対策の実現を目指す。また、各企業・団体への寄付の依頼活動も税制優遇措置を前面に押し出し、リーフレットの配布・ホームページからの呼びかけ等により、引き続き積極的に行っていく。具体的には、以下の活動を行う。

##### <会員増加>

- ・研修会に合わせ、会員交流の場の設定 : 研修会のあとに集会を実施や当会のFacebookを作成した。
- ・入会者紹介及び入会予約キャンペーンの実施
- ・研修チケット発行等の会員特典の検討
- ・退会者発生に係わる対策の検討

研修会で入会案内のビデオメッセージを流し、入会案内を実施、管理者に向けに入会案内の発送  
入会予約キャンペーンを実施し特典チケットを発行(実施期間12月~3月・チケット1,000円×2枚発行)入会数16名

入会者紹介キャンペーンを実施(実施期間4月~6月・チケット1,000円×2枚発行)紹介数4名  
インターネットでの入会申し込みの開始、入会時の受付簡易化のためクレジットカード決済の導入を実施した。

##### <寄付依頼>

- ・企業向け寄付依頼の案内発送
- ・関連団体主催の集会参加企業へのリーフレット配賦

関連企業128社に向け、寄付依頼の文書を郵送し、寄付活動を実施した。助産師会主催の集会、研修会等での出店企業に寄付活動を実施した。助産師マップ作成時の企業広告の募集の案(助産師会の寄付の一環)を理事会に出し採用した。研修会費の会員と非会員の修正案を理事会で検討し、採用した。

##### <賛助会員>

- ・賛助会員の入会促進活動を行った

企業147か所、医療機関92か所、学校50か所に向け、賛助会員の入会を勧めた。賛助会員6か所と増えた。

以上